

## 行方市地域公共交通計画（案）に対する意見に対する市の考え方

- 意見募集の時期　：　令和3年2月22日(月)～令和3年3月23日(火)
- 提出者数　　：　2人
- 意見件数　　：　5件
- 意見　　：　行方市地域公共交通計画（案）に関すること　<　2人，　5件　>

案に対する意見等(要旨)	件数	市の考え方
<p>なめがた地域医療センター、3つの庁舎を拠点となる交通結節点として、公共交通機関同士や公共交通と自転車との接続強化を図ることは非常に大切なことだと思う。</p> <p>行方市は面積が広く、人口が点在しているので、バス路線の設定にはおのずと限界があり、バス停の圏域を例えば500mとしてもすべての移動需要をカバーすることはできない。</p> <p>そこで、自転車で片道 2～3kmの範囲で交通結節点に準ずる基幹バス停を設けてはどうか。</p> <p>基幹バス停までは自転車、徒歩のほか、自家用車による送迎、タクシー、デマンドバス等でアクセスし、路線バス、広域バス、市営バスに乗り換えて目的地まで向かうことができる。基幹バス停の候補地として、廃校になった小学校やコミュニティセンター等を利用してはどうか。</p>	1	<p>交通結節点の機能強化については、今後、利用者ニーズや地域の意向等を踏まえ、利用者目線に立った拠点間及び地域間の乗り継ぎ改善やサイクル&amp;バスライドの導入を検討してまいります。</p> <p>ご提案いただいた基幹バス停の環境整備は、今後の運行ルート再編の参考にさせていただきます。</p>
<p>運行ルートをできるだけシンプルにした方が利用者もダイヤを覚えやすくなり、利用の促進につながるのではないか。</p>	2	<p>利便性や効率性に加え、安全運行に配慮しながら、利用者にわかりやすい運行ルートを検討してまいります。</p>
<p>行方市でも小中学生の生徒が減少しており、今回の施策には上がっていないが、スクールバス路線の再編や路線バスとの混乗も含めて今後の課題と思う。</p>	3	<p>ご意見のとおり、生徒数の減少は避けられない状況にありますので、教育委員会や運行事業者等と協議・調整を図りながら、生徒数</p>

	<p>や居住地分布に柔軟に対応し、運行ルートの見直しやバスの小型化等を検討してまいります。</p> <p>市営路線バスの混乗については、保護者や学校、運行事業者等との十分な協議が必要であり、現時点では混乗化への移行は難しいと考えます。</p>
<p>小学生を対象とした「乗り方教室」の開催や小集会での公共交通の出前出張講座、小学校での環境教育や地域学習を通じたバス教育は特に積極的に実施すべきと思う。</p>	<p>4 賛同意見として承ります。公共交通を確保し、維持するためには、交通利用に対する意識の醸成を図ることが大切であると考えますので、将来の利用者である小学生等を対象とした利用促進事業を展開してまいります。</p>
<p>バス・タクシー等の交通サービスを確保するうえで、運転手の確保は必要不可欠であるが、さらに、乗客に安全安心なサービスを提供するためには、運転手の安全運転、接客マナー教育等の取り組みが必要であると思う。</p>	<p>5 ご意見のとおり、利用者にとって安全安心で快適な公共交通を実現するためには、運転手の運転技術や接客マナーの向上は大変重要なものであると考えますので、計画中、【事業12】について、マナー教育等の検討・実施について追記いたしました。</p>